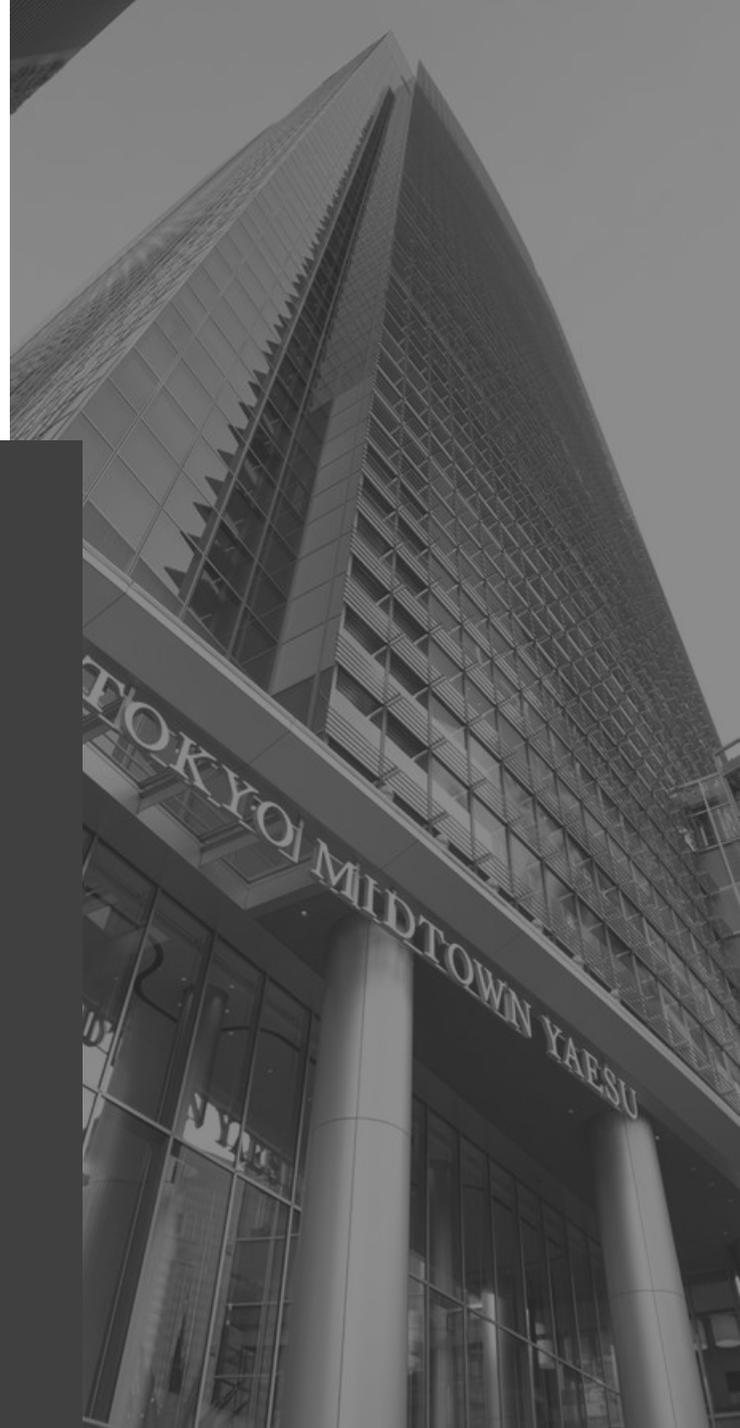




開催報告

- ・担当：カーボンニュートラルチーム リーダー 釜谷洋平
- ・Mail：sustainability-x@funaisoken.co.jp



2025.04.23 第一回例会

利益成長に貢献するサステナビリティ部門になる

2025年4月23日に、サステナビリティ経営研究会の第一回例会が開催されました。

立上げ例会となった当日は約30名のサステナビリティ推進部門責任者・実務担当の方にご参加いただきました。

ポイント

- ・情報開示業務に留まらず、**非財務データを企業の成長戦略へ直結させるための視座転換**と、そのために部門が取るべき「攻め」の立ち回り方
- ・サステナ推進を阻む「短期業績・ROI・役割分担」という3つの壁を乗り越え、**事業部と連携しながら利益貢献を実現する具体的アプローチ**
- ・事業戦略・財務戦略・ESGを一つの構造体として可視化し、社内の意識と目的を統一させることで、**コストセンターから脱却する合意形成術**
- ・孤立しがちな推進部門が、社内外に「仲間」を作り、小さな成功事例を積み重ねることで**組織全体を巻き込むプロジェクトへ昇華させる手法**
- ・一方的な周知では動かない現場に対し、「**浸透**」ではなく「**共感**」をキーワードに対話を重ね、自分事として捉えてもらう取組みの要諦

第一講座 船井総研HD 山路
事業成長を目的とした
サステナビリティ推進の現在地



第二講座 株式会社ニフコ 村田氏
営業・事業部出身のESG推進室長が考える
サステナビリティ部門の在り姿



第三講座 船井総合研究所 貴船
なぜ、サステナビリティは
社内浸透できないのか？



2025.06.13 第二回例会

事業部連携の事例から学ぶ

2025年6月13日に、サステナビリティ経営研究会の第二回が開催されました。サステナビリティ経営に注目が高まる一方、海外情勢からその真価が問われている状況において、サステナビリティ推進について、どのような意義を見出した行くかは重要なテーマと言えます。

ポイント

- ・ 財務・人事・事業との「**境界領域**」にこそ眠る、サステナビリティ部門の専門性を活かした新たな利益創出の機会と、連携ノウハウ
- ・ 事業開発部との兼務の実践から見えてきた、**開発プロセスの上流にサステナビリティの視点を実装**し、製品競争力を高めるための現場の知恵
- ・ 環境規制への対応をビジネスチャンスへ転換し、顧客への訴求力を最大化させる「**サステナビリティ×マーケティング**」の実践論
- ・ 担当者の想いや属人性に頼らず、**事業計画立案プロセスそのものにサステナビリティ項目を必須要件として組み込み**、組織で回す仕組み作り
- ・ 外部評価スコアの向上をゴールとせず、ステークホルダーとの対話ツールとして活用し、**自社にとっての本質的な価値向上へ繋げる視点**

第一講座 船井総研HD 山路
企業価値向上に資する
サステナビリティ最新トレンドと部門の進化



第二講座 アズビル株式会社 丸山氏
事業開発部との兼務で見えてきた
サステナビリティ部門の価値と可能性



第三講座 船井総合研究所 貴船
なぜ、サステナビリティは
社内浸透できないのか？



2025.08.08 第三回例会

ボトムアップ型のサステナビリティ推進

2025年8月8日、第三回 サステナビリティ経営研究会が、「ボトムアップ型の推進の在り方」をテーマに開催されました。LINEヤフー株式会社西田氏の講演では、サステナビリティ意識の浸透策として、「芽の出し方・育て方」という観点から、推進部門がいかに関わるべきかについて、具体的な事例を交えて語られました。

ポイント

- ・ トップダウンではなく、**現場発信の実績作りとボトムアップのアプローチ**によって、経営層のリーダーシップと覚悟を引き出す逆転の発想
- ・ 推進部門に蓄積された膨大なESGデータを、事業部が顧客に価値を提案するための強力な「**情報資産**」へ変える手法
- ・ 階層別研修とCXO連携を組み合わせ、トップの理解と現場の自発的な推進活動が双方から評価される「**サステナブルな風土**」の醸成プロセス
- ・ 全員を説得しようとするのではなく、「**会社好き**」な社員を発掘し、**彼らを起点に推進の波を広げていく巻き込み戦略**
- ・ 事業成長とサステナビリティのベクトルを完全に一致させるために、**中期経営計画とマテリアリティの整合性を図る**具体的な策定アプローチ

第一講座 船井総研HD 山路
ボトムアップでサステナビリティを
推進する秘訣



第二講座 LINEヤフー株式会社 西田氏
理想と現実の狭間で掴む、
ボトムアップ型サステナビリティ推進



第三講座 船井総合研究所 貴船
サステナビリティをボトムアップで進める為に
仲間の見つけ方



2025.10.08 第三回例会

サステナビリティを機能させる“サステナビリティガバナンス”

2025年10月8日、第四回 サステナビリティ研究会が開催されました。サステナビリティ施策にいかに行き届かせるかは、多くの企業にとって喫緊の課題です。そうした中、執行体制の変革を実現された兼松株式会社 池田氏のご講演は、今後のサステナビリティ推進の新たな姿を示す、極めて示唆に富むものでした。

ポイント

- ・ 守りのガバナンスを超え、社会的価値と経済的価値の両立を目指す「**攻めのCSV経営**」へ転換するための戦略的思考法
- ・ 執行側であるサステナ部門が、監督側である取締役会に対して働きかけ、**実効性のある指針やトップのコミットメント**を引き出すための技法
- ・ コーポレート主導の限界を突破し、各事業部の責任者が主体となり意思決定を行う「**稼ぐための委員会運営**」へ変革する組織改革のプロセス
- ・ 「取り組むことが望ましい」という努力目標のレベルから、社内規定上の「**必須事項**」へと昇華させ、**全社的な実行力を担保する制度設計**
- ・ 現場の積み重ねと働きかけによって、経営トップから「やることは全てやり切る」という不退転の覚悟と**コミットメント**を引き出す道筋

第一講座 船井総研HD 山路
サステナビリティガバナンスの時流解説
-部門責任者に求められるスキルとマインド-



第二講座 兼松株式会社 池田氏
営業主体のサステナビリティ推進委員会へ
改革した全プロセス



第三講座 船井総合研究所 貴船
CSV経営へ歩みを進めるために、
ポイントとなるマテリアリティの存在



2025.12.08 第五回例会

「ビジネスと人権」とCSV経営。社会課題解決と事業の連結

2025年12月8日に、第五回の研究会が開催されました。今回はCSV経営の先駆けといえるキリンホールディングス様内田様に登壇をいただき、サステナビリティ経営を考えながら本質的に実現していった過程について講演をいただきました。

ポイント

- ・ **社会課題解決と経済価値を両立するCSV経営**により、持続的な企業価値（PBR）の向上を目指す為の道筋づくり
- ・ 自社のDNAと社会課題からパーパスを策定し、**非財務KPIを役員報酬に連動させて経営に実装する**までの一連のプロセス
- ・ 実効性のある取り組むの裏にある**ビジネスモデル別のリスクを特定**。人権尊重をグローバル市場への「参加資格」として捉え対応する
- ・ 常に新しい情報を取得するためにエコバディス等の外部評価を共通言語とし、**データに基づき事業部門と連携して改善を推進する**
- ・ ステークホルダーとの対話で課題の本質を捉え、**外部団体との「共創」により大きな社会課題に挑む**

第一講座 船井総研HD 山路
自社のビジネスモデルと顧客要請を出発点とした
「ビジネスと人権」



第二講座
キリンホールディングス株式会社 内田氏
CSVが築く企業の共通言語



第三講座 船井総合研究所 貴船
パーパス実装による持続的価値創造の道

